

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	白鳩老人グループホーム		
所在地	山口県周南市大島637-2		
電話番号	0834-84-0480	事業所番号	3570500425
法人名	社会福祉法人 白鳩学園		

訪問調査日	平成 19 年 12 月 4 日	評価確定日	平成 20 年 3 月 25 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	10 人	常勤 5 人 非常勤 5 人 (常勤換算 6.9 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋瓦葺 造り		
	1 階建ての	1 ~	階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額	20,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無	
食費	朝食	220 円	昼食	300 円	
	夕食	380 円	おやつ	100 円	
その他の費用	月額	19,096 円			
	内訳	光熱水費 9,300円、共益費 8,060円、布団リース 1,736円			

(4) 利用者の概要 (12月4日現在)

利用者数	9 名	男性	0 名	女性	9 名	
	要介護 1	4	要介護 4	1		
	要介護 2	2	要介護 5	0		
	要介護 3	2	要支援 2	0		
年齢	平均	歳	最低	69 歳	最高	87 歳

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 津田胃腸科内科、徳山静養院 歯科
-------------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

利用者一人ひとりの思いを受け止め、その思いに添った支援をするため、利用者の声を会話の中で聞いたり、職員の気づき等を相談受付簿や介護日誌に記録して把握し、希望を取り入れた支援をされています。職員は常に生き生きとして、明るく接することに心掛けたり、部屋の入り口の飾り付けは2ヶ月に1回一人ひとりの手作り作品を居室に飾ったり、多彩な月間行事(12月の行事予定は編物、おしろこ、カレンダー作り、輪飾り作り、折り紙、年賀状づくり、ぞうきん縫い、クリスマス会準備、喫茶等)に参加されることで、利用者は自分らしさを保ちながら生活できるように取り組まれています。

(特徴的な取組等)

母体の知的障害者施設「社会福祉法人白鳩学園」の障害者と高齢者の交流が自然な形で行われています。隣に小規模多機能型居宅介護事業所があり、泊まりの利用者が朝・夕の食事をホームと一緒に食べることで馴染みの関係ができ、無理なくグループホームへの入居に繋がっています。2ヶ月に1回行事予定や通院のお知らせ、行事をしている様子の写真などイラスト入りで「壁だより」を掲示したり、その壁だよりをファイルして閲覧ができるようにしたり、職員のアイデアが活かされています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

小規模多機能型居宅介護事業所開始の時期と重なり、前回の評価結果に対する取り組みができなかったようです。

(今回の自己評価の取組状況)

職員全員で自己評価を行い、管理者が取りまとめています。全員が評価することで、職員一人ひとりが認知症ケアを再認識する機会となっています。

(運営推進会議の取組状況)

地域住民代表者、知見者、市の職員と地域包括支援センター職員、利用者と家族などが参加し、小規模多機能型居宅介護事業所と共同開催による運営推進会議として3ヶ月に1回行っています。自己評価、外部評価の報告も行い、会議の提言により、行事予定入りのホーム便り「ほのぼの」を公民館に置いたり、自治会の回覧板で回覧するようにしたりして、意見をサービスに活かされています。

(家族との連携状況)

利用料の支払を現金払いにしており、1ヶ月に1回は必ず家族と面談し状況を報告し、家族の希望を聞いています。花見、敬老会、みかん狩り、クリスマス会等に家族の参加を呼びかけています。

(地域との連携状況)

自治会館での生き生きサロン、小学校の運動会、地区の夏祭りなどへの参加、移動図書館での地域の人との交流、文化祭に作品出品と見学など、地域の人々との交流が図られています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>当初から「その人がその人らしく安心と安らぎのある生活づくり」を理念とし、管理者が、毎年具体的な方針を示し、今年は「一人ひとりを見つめる」としている。地域密着型サービスとしての理念は作り上げていない。</p>	<p>・地域密着型サービスとしての理念の作成</p>
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を事務室に掲示し、管理者は、会議や日々の関わりの中で理念について伝え、全員が理念を共有し、実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>自治会館での生き生きサロン、小学校の運動会、地区の夏祭りなどへの参加、移動図書館での地域の人との交流、文化祭への作品出品と見学など、グループホームも地域の一員として受け入れられていて、地元の人々との交流も日常的に行われている。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>職員全員が評価の意義を理解し、全員で自己評価を行い、管理者が取りまとめている。全員が評価することで、職員一人ひとりが認知症ケアを再認識する機会となっている。小規模多機能型居宅介護事業所開始の時期と重なり、前科の評価結果に対する取り組みができていない。</p>	<p>・外部評価結果の検討</p>
5 (10)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>地域住民代表者、知見者、市の職員と地域包括支援センター職員、利用者と家族などが参加し、小規模多機能型居宅介護事業所と共同開催による運営推進会議として3ヶ月に1回行っている。自己評価、外部評価の報告も行い、会議の提言により、行事予定入りのホーム便り「ほのぼの」を公民館に置いたり、自治会の回覧板で回覧するようしたりして、意見をサービスに活かしている。</p>	<p>・2ヶ月に1回の開催の検討</p>
6 (11)	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>様々な問題や困った時など積極的に連絡をとり、市の担当者と共に解決を図っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	利用料支払を現金払いとしているので、1ヶ月に一度は必ず家族と直接会って暮らしぶりや健康状態を話している。「白鳩だより」を年3回出し、行事の予定や様子、職員の異動等を知らせている。金銭の報告も定期的に行われている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	介護相談員が月に一度訪問し、相談にのっている。出て来た意見や不満を管理者、職員で対応を話し合い、相談員のアドバイスも受けている。相談・苦情を受け付ける窓口、及び職員は重要事項に明示し、玄関に掲示しているが外部機関、第三者委員が明示していない。	<ul style="list-style-type: none"> ・外部機関の明示と周知 ・第三者委員の選任 ・苦情処理手続きの明示
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員10名を確保し、柔軟に対応している。緊急時、夜間には職員間での話し合いが行われ、勤務交代や管理者も状況に応じて緊急時、夜間にも対応している。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	法人内の他部署との異動はなく、離職はある。採用もホーム専属とし、やむを得ない場合は引継時に利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の研修を受ける機会を設けているが、職員不足になるので研修に参加することができていない。新任職員の研修が不足している。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修体制の確保 ・段階的な研修計画
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入し、勉強会に参加している。同業者との交流、相互訪問等の活動はしていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・相互訪問と交流等の検討

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>利用希望者や家族には、見学や遊びにきてもらうなどして、場の雰囲気慣れる様に配慮している。隣接する小規模多機能を利用し、朝夕の食事を一緒にしたりして馴染みの関係を作り、スムーズな入居につながるよう工夫をしている。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>編み物、折り紙、ぞうきん縫い、食事の準備、片付けなど、職員と一緒に過ごしながら、調理の得意な人には、味付けなど教えてもらって、支え合ったり、協力し合う関係を築いている。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>会話の中で本人の思いを聞いて、スタッフの気づきも含めて、相談受付簿や介護日誌に記録し、希望や意向の把握に努めている。買物に行きたいという利用者の声を聞き、毎日利用者1人が2人とスタッフ1名で買物に行っている。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>月1回、ケアカンファレンスを開催し、本人や家族の思いを聞き、必要な場合は、家族にも参加してもらい、それぞれの意見を聞き、本人の立場に立った介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>3ヶ月に1回介護計画の遂行状況、効果などの評価をし、状態変化、家族・本人の要望に応じて見直しを行ない、現状に即した新しい計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>病院への受診時の送迎や付き添い、理美容院への送迎、隣接施設を活用しての特浴利用介助など、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者のかかりつけ医との関わりを大切に、受診時の送迎や付き添いなど、受診の支援をしている。また、必要に応じて、訪問歯科医や訪問定期健診など、状況に応じて適切な医療が受けられるよう支援している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	契約時に重度化した場合の事業所の方針を伝えている。認定更新時に要介護4以上の認定が出た段階で話し合いを行い、入所施設などの登録をしてもらうが、受入れ可能時まで当事業所での生活は継続出来、全員で方針を共有している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応はしていない。面会簿が一覧表になっている。	・面会簿の工夫
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	音楽で落ち着く入居者へは、自由に音楽が聴ける場所の提供や、本の好きな人は、移動図書館の活用支援、手紙を書く人の支援、外へ出たい時は気持ちに添うよう散歩の支援をするなど、一人ひとりのペースを大切にしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事が楽しみとなるよう、食材の購入に利用者一人が二人と一緒に買い物に同行してもらっている。調理、配膳、食事、片付けを皆と一緒に楽しみながら行っている。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	午後毎日入浴を行っている。入浴を拒否する人はなく、入浴が楽しみとなっている。車椅子の人へは隣接する小規模多機能施設の特殊浴槽での入浴支援をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期 待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食事作り、洗濯物たたみ、中庭外庭の掃除など一人ひとりの活躍する場面づくりにも配慮している。本を読みたい人へは移動図書館の利用の支援、手紙を書くのが好きな人へ便箋、切手、投函などの支援、音楽を聴くのが好きは人へは廊下に椅子、カセットデッキを置き本人が操作しながら聴けるように支援したりして、個別の楽しみごとや気晴らしの支援をしている。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	周辺の散策、買い物など、外へ出たい人へは、職員がさりげなく支援し本人の気持ちに添う様になっている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアについては全職員が理解し、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関に鍵をかけることの弊害については理解しているが、建物が出入りを把握しづらい構造で、今まで2回捜索願いを出したことから、玄関に鍵をかけている。	・鍵をかけない工夫
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアルがあり、事故報告書に記録し、対策を検討し予防につなげている。一人ひとりの状態を把握、記録し事故につながらないよう支援をしている。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署の指導のもとにAEDの使用や救急救命法の講習を受けているが、全職員での定期的な訓練をしていない。	・定期的な訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2回以上の避難訓練をしているが、地域の人々の協力を得られる働きかけはしていない。	・地域への働きかけ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	個々の既往歴、現在の健康状態、治療状況、薬の情報(目的・副作用・用量)等はファイルを通じて全職員が把握している。服薬は、手渡しと確実な服用の確認をしている。必要な情報は医師へフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後歯磨きやうがいの支援をしている。夜、義歯の手入れをし台所に保管している。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	カロリー計算がされた栄養士による献立を参考にして、職員がホーム用に献立を立て、食事量をチェックし、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。水分量の記録は必要な時行なっている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルに基づき、手洗い、消毒など徹底している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	食堂には皆で文化祭に作ったクリスマスの飾りを飾っている。2ヶ月に1回職員手作りのイラスト入り壁だよりを貼り、調理の音や匂いなど、季節感や生活感が感じられるよう支援している。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベットやタンスはホームの設備、布団はリースである。各居室入口の飾りは2ヶ月に1回利用者の手づくりで、居室内には花や写真を飾り、本人が居心地良く過ごせるようにしている。	

自己評価書

【事業所の概要】

事業所名	白鳩老人グループホーム		
所在地	山口県周南市大字大島637番地の2		
電話番号	0834-84-0480		
開設年月日	平成 12 年 9 月 1 日		
定員	登録定員 9 名	利用定員 通い 名	宿泊 9 名

【サービスの特徴】

母体の社会福祉法人白鳩学園は知的障害者の施設です。障害者と高齢者のふれあいの館として、ごく自然な形で互いに支えあっています。また、隣接の小規模多機能型居宅介護事業所との交流もあり、グループホーム入居希望の方が長期滞在型でご利用になっています。「認知症になっても地域の中で安心して暮らしたい。」「自分らしさを保ちながらのんびりと喜びのある暮らしをしたい。」そんな誰もが願う普通で当たり前の生活を送っていただきたいと思います。

【登録者の概要】 (9 月 1 日現在)

登録者数	9 名		男性 名		女性 9 名	
	要介護 1	2	要介護 5			
	要介護 2	2	要支援 1			
	要介護 3	3	要支援 2		1	
	要介護 4	1				
年齢構成	平均 80 歳	最低 69 歳	最高 87 歳			

【自己評価の実施体制】

実施方法	毎年9月を自己評価月間として、全スタッフで検討しています。特に、今年は例年になく多くのスタッフが関わることができました。
評価確定日	平成 19 年 10 月 30 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		一同に集うことが難しいため、数回にわけ共通理解を図ったが十分ではないため周知する必要がある。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		ニーズに対し判断に迷ったときは、常に理念を思い起こし支援に努める。 又、学習する機会をもつ。
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		上記同様、常日頃の関わりの中で周知したい。
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		職員の3分の1が地元スタッフのため、日常的な付き合いが自然とできるように働きかけていく。
7	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価・外部評価の意義・目的を理解した上で全員で取り組み、新たなニーズを改善に向け取り組む努力をしている。	年に何度かは充実した時間を作り、取り組みたい。
10	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	回を重ねるごとにサービスの向上に向けた意見が出るようになり、検討・改善されているが、その内容を全スタッフに周知する取り組みが必要である。	全スタッフが会議録に目を通し、把握する。
11	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営やサービスにおいて様々な課題や問題が生じた際は積極的に市町村担当者と連携をとり、一緒に解決を図っている。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	地域福祉権利擁護事業・成年後見制度について漠然と理解はできているものの制度を活用した支援には至っていない。	制度を理解する研修の場を設け、活用できるようにしたい。
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人の合同職員会や事業所別話し合いの機会において高齢者虐待や拘束について周知が図られているので、一人ひとりの職員に意識としてはあると思う。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には事業所のケアに対する考え方や取りみ、退去を含めた事業所の対応可能な範囲について十分説明を行っている。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	介護相談員を月に1度派遣してもらっている。また、家族にも紹介し連絡先等を掲示している。出てきた意見や不満は管理者を含めた職員間で話し合ったり、相談員のアドバイスをいただいたりして運営や日々のケアに生かしている。	
16	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	利用者の暮らしぶりや健康状態、職員の異動は面会時を利用して説明したり、家族向けのお便りで知らせている。金銭については使途の確認や金銭出納の明示を行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	ケース記録や金銭出納簿など開示の要求に応じている。また、自己評価・外部評価においても、いつでも見られるように玄関先に掲示している。		
18 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族には手紙や訪問時などで常に問いかけ、何でも話してもらえそうな雰囲気づくりに心がけている。また、契約時に相談受付職員や外部の受け付け機関などを説明している。		
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃からコミュニケーションに心がけ職員が自分の意見が言い易い状況作りに心がけている。また、出てきた意見や提案についてもサービスの向上に向けた取り組みを心がけている。		
20 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	管理者は状況に応じた対応ができるように通常のシフトに入っていないため、夜間や緊急時に対応できるようになっている。		
21 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者、ご家族への信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応することが重要と考えており、異動や離職がやむ得ない場合も、その時期や引き継ぎの面で最善の努力をしている。		
5. 人材の育成と支援			
22 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外での研修や資格取得を奨励し国家資格取得者には手当を付けるなどして自己育成に意欲付けを図っている。		新任職員においては、研修時間をもう少し設ける必要があると思う。
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	専門的学問を身につけ社会に出たばかりの若年スタッフや生活経験豊富な熟年スタッフ、利用者姉妹ほどの年齢差のスタッフで構成され、バランスのとれた職員配置となっている。		
24 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県グループホーム連絡協議会に加入し、同業者とのネットワークづくりや協議会主催の勉強会に参加し、サービスの向上に努めているが機会としては少ないと思う。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	本人の情報を機会あるごとに伝え、今起きている課題やニーズにどのように支援するか、家族と事業所が一緒に考えるような関係を築いている。		
34 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	はがきや手紙の利用、年中行事への家族参加などで本人と家族の距離があかないように、一緒に過ごす機会を大切にしている。		
35 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	これまで大切にしてきた馴染みの人の面会や家族の連れ出しに頼っているのが現状である。働きかけとしては、年賀状や暑中見舞いなどのあいさつ状で保てるようにしている。		
36 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	みんなの集いの場として、食堂に集まることが多いが利用者同士で会話を交わし、孤立している場はあまりない。		
37 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	他事業所に移られてからは、ほとんど付き合いがないが一部の方については年賀状程度の関係を保っている。		
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>			
38 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人がどのように暮らしたいのか、何が最良なのかを生活全体で捉えられるように努力している。		
39 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族にこれまでの暮らしの情報の大切さを理解していただき、プライバシーに配慮しながら情報を得るようにしている。また、入所したからといって、急に生活リズムを変えるのは困難な為、本人の生活リズムを把握した上で対応している。		
40 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者の部分的な問題や断片的な情報の把握に陥らず、一人ひとりの一日の生活の流れからその人全体の把握に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族には日ごろの関わりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。また、カンファレンスでの話し合いをもとに、本人の立場に立った計画書の作成に努めている。	
42	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	利用者一人ひとりの介護計画の遂行状況、効果などを評価するとともに、状態変化や家族、本人の要望に応じて見直しを行っている。状況に応じて早急の立て直しもできている。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録などは個別のファイルがあり、いつでも確認できるようになっている。また、家族から申し出があれば自由にすることができ、職員間は申し送りノートを活用している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	緊急時の通院はもちろん、定期通院介助や散髪の実施程度で十分とはいえない。ただ、身体的に入浴困難者には隣接の特浴を利用している。	特別浴槽や、特殊車輦(車椅子対応)など、他事業所と連携を図り、今後もサービスの質の向上を図りたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	本人と地域とのさまざまな接点を見出し、本人が地域の中で暮らせるように、公共機関の利用や地域団体への協力を呼びかけている。	呼びかけてはいるが、協働は少ないため検討していきたい。
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	地域ボランティアや民生委員などの見学の受け入れ、地域向けチラシなどで事業所の開放に心がけている。	開放には様々な考え方や取り組みがあると思う。無理のない様、検討していきたい。
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	個別での他の事業サービスを利用することはない。理美容については、全員希望前提の上で訪問サービスを受けている。また、入浴困難な利用者には併設事業所の特別浴槽を利用している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		緊急時や困った時だけの関わりではなく、日常的な関わりの中で情報提供を図りたい。
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊厳し日々の関わりに気をつけ徹底を図っている。	今後もより一層、一人ひとりを大切に尊重しつつ支援を行う。又、職員間の統一と徹底を図る。
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	職員側で決めたことを押し付けるのではなく、生活の中で選択できる場面や言葉かけを工夫してる。	本人が判断・決断が困難な時は、できるような工夫・取り組みを検討する。
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	日常の生活の中で個々の力が発揮できるような場面や言葉かけに工夫してる。	今後も一緒に取り組み、本人のできる力を引き出していきたい。
59	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	その日その日を一人ひとりのペースでどのように過ごしたいのか働きかける支援に努めている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	朝の着替えは基本的には本人の意向で決めている。ただ、自己決定が難しい利用者は職員が支援している。美容については地区の美容師に訪問美容を依頼し、できる範囲で本人の希望を聞いている。	
61	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	食材の購入から調理・配膳・食事・片付けに至るまで職員と利用者が一緒に楽しみながら行っている。	
62	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	自己管理のできる利用者には本人の嗜好(お酒・おやつなど)が日常的に楽しめるように支援している。また、一緒に買い物に行く機会を作り、日常的な楽しみのひとつとなっている。	本人の希望を取り入れた買い物の実施を検討する。
63	<p>気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	個々の排泄間隔を把握することにより、尿意・便意の訴えの希薄な利用者にもトイレでの排泄を心がけている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	<p>入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。</p>		
65	<p>安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>		
67	<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>		
68	<p>日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>		
69	<p>普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>		<p>外出の機会には一人ひとり差があるため、少ない利用者には今後も事業所からの働きかけを行う。</p>
70	<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>		
71	<p>家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
72	<p>家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<p>家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
74	<p>身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。</p>		年間、学習計画を立て毎年取り上げたい。
75	<p>鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>		時間帯を見て、試験的にやっていきたい。
76	<p>利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>		職員の人数が少ない時も、範囲を制限することなく、室内は自由に過ごせるよう目の届く工夫をしていきたい。
77	<p>注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>		
78	<p>事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>		勉強会で取り上げていく。
79	<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>		避難訓練の時間帯を検討し、夕方～夜(人員減)に実施してみる。
80	<p>再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。</p>		再発防止への取り組みとして、カンファレンス時に改善策を検討しているが、転倒に関してはなかなか予測が難しい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		避難訓練の時間帯を検討し、夕方～夜(人員減)に実施してみる。
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	ハード的な限界はあるが、玄関内の柔らかさ、親しみやすさを感じてもらえるように創意工夫をしている。	
91	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用での空間は利用者の手作りで色々創意工夫をしている。自分たちの作り上げた物が生活に取り入れられているため、馴染みの空間として落ち着きを感じる。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用スペースのあちこちに、少人数で過ごせる空間を作り、居心地の良い空間として活用してもらっている。	
93	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	持ち込みに制限はない。ただ、事業所で画一的に設備がされたもので間に合うため、配置の工夫で居心地の良さを感じてもらっている。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	空気の入れ換えや温度調節には細心の注意をはらっており、心地よい空調だと感じている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	本人の活動性を維持し安全でかつできるだけ自立に向けた工夫として、車椅子・トイレ・老人車を活用している。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用者の動きを観察し、必要に応じて手すりやカーテン・のれんなどを設置し混乱や失敗の無いように配慮している。	
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物周辺には、中庭、洗濯干し場、ベンチなどがあり、体操したり、涼んだり、おしゃべりしたりと利用者が楽しめる空間として活用している。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="radio"/> 毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="radio"/> 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="radio"/> 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	<input type="radio"/> 家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように <input type="radio"/> たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input type="radio"/> 少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="radio"/> 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	<input type="radio"/> 家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない